

## <ポルトガルの伝統人形劇>

\*ビデオ上映・講演

Bonecos de Santo Aleixo

### ポルトガル・サントアレイショ人形劇の紹介

この伝統的人形は、アレンテージョ地方の村で、スペイン国境にほど近いヴィラ・ヴィソーザで生まれました。一番古い人形使いの記述が残っているのは1800年代ですが、それ以前のことはわかっていません。棒で操るタイプのもものとしては南イタリアと北ヨーロッパ産のものに似ていますが、それらと比べるとサントアレイショ人形のサイズは小さく、20cm から40cm の大きさです。



人形自体は、人形師タリーニャの祖先から代々受け継がれてきました。近年まで、そのお話しはすべて言い伝え（口伝）により成り立ってきましたが、1976年にはその家系が途絶えます。そして1978年に、現在では世界遺産となったエヴォラ市にあるガルシア・デ・ルゼンデ劇場にて、タリーニャ氏のサントアレイショ人形劇が復活します。その芸術性と文化の全てが継承された博物館とアトリエ、人形劇団ができて、現在に至っています。



人形劇のステージは、木づくりで、板に花や木が描かれています。古くは教会の祭壇の装飾として使用されていたものです。フロントカーテンがあり、ステージの照明はオイルランプです。人形は、木材およびコルクで作られており、キャラクターによってそれぞれ異なった衣装に身を包んでいます。音楽は6弦のポルトガルギターに合わせて

アレンテージョ地方の歌が歌われます。口伝に基づいたテキストは、キリスト教やユダヤ教など宗教的なテーマと大衆文化の融合を見事に表現しており、全ての世代に今も楽しめる人形劇となっています。

ランプや蠟燭の火を使うので、現代の劇場では上演許可がおりづらく、とても貴重な伝統人形劇となっています。ぜひ日本の方々にもこのような文化遺産がポルトガルにあることを知っていただきたいと思い、数々の取材を経て、ガルシア・ルゼンデ劇場より今回のビデオ上演の許可をいただきました。短い時間ではありますが、お楽しみいただけたら幸いです。

田中紅子 (SOL' TA)

